

2022年9月 昭和鯉城会会報 107号

昭和鯉城会便り



行事レポート

愛知県議会の傍聴

32期（地域A） 松栄 樋口 敏幸

令和4年6月20日(月)、暑いほどの好天に恵まれて6月度の昭和鯉城会行事「愛知県議会傍聴」が開催された。(15名参加)

自分は今まで中・高校の生徒議会ぐらいしか縁が無く、本物の議会傍聴は初めてで、かなり興味津々で参加した。

開会10分前の午前9時50分に傍聴席に入場。我々を含めて40～50名の傍聴者がおり、コロナ禍で座席制限があるものの、喫緊の案件が目白押しと言う訳でもないようで、些か寂しい傍聴席であった。

午前中のみ傍聴であったが、3名の議員質問が有り、夫々3～4項目の質問に対して、県執行部門の責任者が答弁するという、お馴染みの議会風景であった。

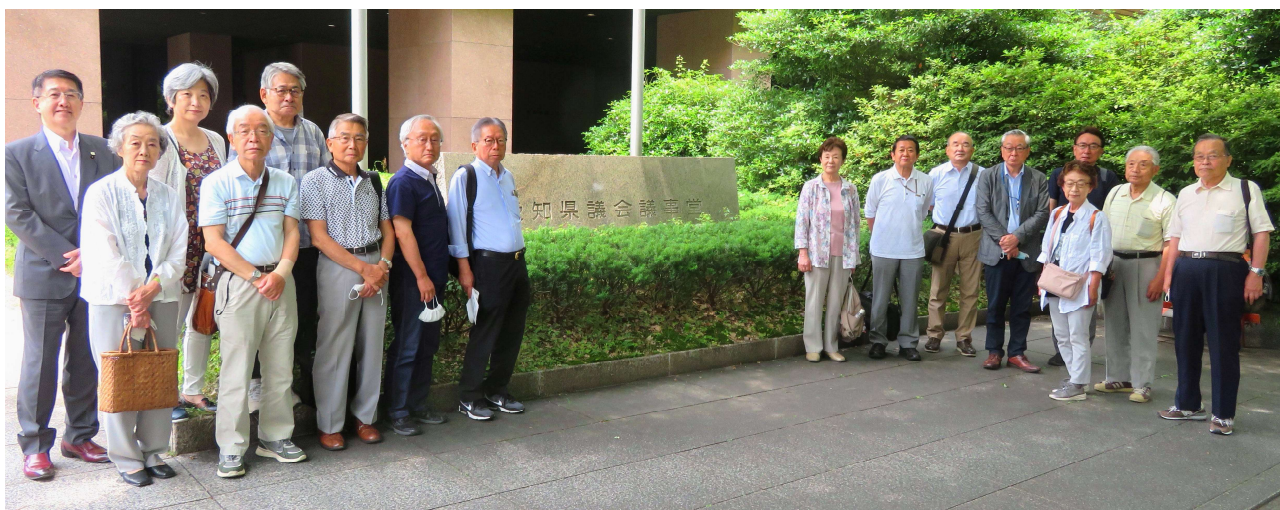
質問項目の内、自分は

- ① バランスのとれた再生可能エネルギーの拡大について
- ② 交通分野のデジタル取り組みについて
- ③ 行政改革におけるBPR(Business Process Re-engineering)の推進状況
- ④ トラックドライバーの担い手不足解消(modal shift への過程とは言え)
- ⑤ 子どもの体力低下問題について(小学5年生の男女が全国ワースト!!)

等に興味を覚え、執行部門の答弁を注意深く聞いたが、PDCA(Plan Do Check Action)を回すと言うキーワードが、議員/執行部双方の発言に頻発する割には、今一つ内容に具体性/迅速性に欠け、些か物足りない感があった。

詳細は各種委員会で議論され、本会議が概括質疑である事は国会同様で十分承知しているものの、100名の議員に対して60名の執行部門の臨席は、その裏での議会対策要員の業務を考えると、膨大なエネルギーが消費されているなあと感じる。

何れにせよ、身近な懸案事項に係わるレベルの『市町村議会』、外交/安全保障/経済問題等を司る『国会』(二院制については色々議論有るが…)の中間にある県議会の、存在意義について考える良い機会になった。



議事堂前にて

行事レポート

やきもの散歩道を歩き

27期（福祉）川原 横田 寿子

7月6日 常滑やきもの散歩道の散策に参加。
名鉄金山で9時35分に乗り、集合場所常滑駅へ。
メンバーは、男性8人、女性1人って聞いて「あちゃ～」、紅一点にショック。

気持ちを切り替え出発。駅から散歩道へ入る途中の「とこなめ招き猫通り」のり面に、やきもの招き猫、夫婦円満、家内安全、禁煙、美人、安産・・・20個位の色んな祈願招き猫が有りました。

ポイント②番から散歩道に。石灰焼成の煙突の小道、⑧番の廻船問屋瀧田家は休館、⑨番土管坂、小道を上ったり下ったりして、⑭番登窯広場展示館、ここも休館。水琴窟があり、お水を流したけど音がしない。「壊れてるね」と言ったら、水琴窟も水曜休みと言って、皆で納得。⑬番の登窯10本の煙突を見て、ランチが食べれる⑳番辺りの常滑屋に向かって、小道坂を歩く。



とこなめ招き猫通り



生の招き猫

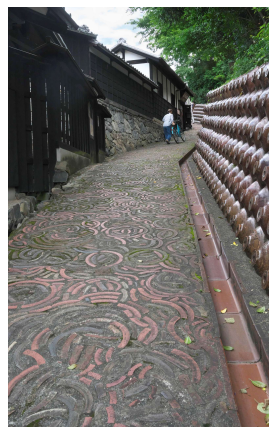


やきもの散歩道マップ

(出展；HP とこなめ観光協会常滑支部)を改変



煙突風景の見晴



滝田家前

ここは開いてました。やっと冷房の効いた建物の中で見学と休憩をして常滑駅へ。

前日の雨が嘘のような天気。晴れ人間が揃ったのか、良すぎる天気はやきもの散歩道の散策でした。



登り窯広場にて

行事レポート

木曾川鵜飼いに参加して

32期（文化A） 広路 山崎 浩一

晴天の8月2日、会員8名は、名鉄犬山遊園駅に11時頃集合し、徒歩で3、4分先の犬山橋港チケット販売所へと向かった。ここが千三百年の伝統を誇る歴史絵巻が繰り広げられる木曾川鵜飼いの出発地点である。全員が事前にトイレ休憩を済ませ、冷房の効いた休憩所で期待に胸を膨らませ、乗船時間が来るのを雑談しながら待った。決められた時間となり、観光会社担当者より簡単な注意事項を聞き、ワクワクしながら乗船する順番を待った。説明によれば、昼鵜飼いは2003年から開始され、木曾川のみで実施されているそうであり、今年は10月15日まで開催される予定である。我々が乗船する屋形船は、301号と発表され、11時50分から順番に乗船することとなった。その前にアルコール類は必要な人のみ事前に購入するよう指示があったため、ビール、日本酒をそれぞれ購入し、いよいよ乗船となった。1艘当たりの乗船者は、我々を含め20数名程度であった。



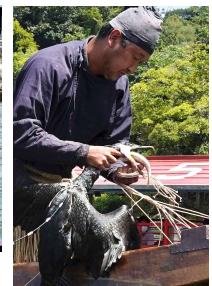
屋形船から

まず、最初の木曾川遊覧は、弁当を食べるための時間であり、持ち込んだアルコール類片手に12時40分ころまで食事とおしゃべりを楽しんだ。その間、屋形船は木曾川の緑に包まれた川辺の自然を体感させてくれるながら上流から下流、下流から上流へと川面を滑るように進み、炎天下での一服の涼を与えてくれた。木曾川は愛知県と岐阜県の境であるため、県境を跨いだ遊覧となった。その際、国宝犬山城を仰ぎ見る位置まで船を進めてくれたことから、以前、鯨城会で訪れた犬山城の美しい姿を別の角度から堪能することができた。

食事が終わったところトイレ休憩を取るため一度下船し、犬山橋港チケット販売所で、本日の鵜匠であり、風折烏帽子をかぶり、水しぶきから守る腰みのを巻いた伝統的な装束を身にまとった石原鵜匠より鵜飼について「おもてなし(レクチャー)」を受けた。鵜舟(鵜飼船)は、全長約12メートルあり、鵜匠を含め3名で操り、10羽の手縄を付けた海鵜を一度に操るのが一般的だそう。今日の鵜飼いは昼間であるため、篝火はともさず、獲物のアユも船から投げ入れるとの説明があったが、これ以外は、通常の鵜飼と同じであり、千三百年の伝統を目の当りにすることになった。興味深かったのは、鵜がアユを頭からしか飲み込まないとのことであり、後ほど、その通りであることを確認できた。



鵜飼風景



13時から再乗船し、鶯の鳴き声が開始の合図となり、いよいよ鵜飼観覧が始まった。屋形船から、鵜匠の乗った鵜舟までの距離が近く、歴史ある漁をすぐ目の前で見る事ができた。鵜が川にもぐり、魚を捕らえ、水面に上がってくると、鵜匠は手縄を引き、鵜が捕らえた魚をはき出させ、それを何度も繰り返す光景が臨場感たっぷりに繰り広げられ、テレビでは何度も見たシーンを目の前で十分堪能することができた。これが昼鵜飼いの醍醐味でもあった。このようにして時間はあっという間に過ぎ、心地よい風を感じながら13時50分頃鵜飼いは終了した。参加者全員が十分に満足し、来た時と逆のルートをたどり、家路についた。



屋形船前にて

昭和鯨城会活動

34 期生対象地域ミーティング(高齢者疑似体験講習)

32 期 (生活 B) 広路 高島 善行

令和4年6月15日(水)10:00~11:45 昭和区社会福祉協議会の研修室において、鯨城学園2年生(34期生)を対象に地域ミーティングを実施しました。昭和区在住者の27名に事前に文書で案内をしましたが、当日参加は6名でした。(出席予定は9名)

小川会長、鯨城学園松浦主任、社会福祉協議会不破事務局長の挨拶のあと、社会福祉協議会の担当者から、少子高齢化社会の進展、名古屋市の高齢化率、地域支えあい活動、昭和鯨城会と社会福祉協議会との関わり、高齢者疑似体験の目的等の概要説明を受けました。その後、実際に6名の参加者全員に2人1組になっていただき、高齢者疑似体験をしていただきました。



参加者への挨拶



疑似体験セット装着



読書、歩行の疑似体験風景



記入体験

高齢者疑似体験では、ひとりが疑似体験セット(視覚障害ゴーグル、ヘッドホン製耳せん、ひじ・ひざサポーター、重りバンド、重り付ベスト、前かがみ姿勢体験ベルト、手袋、アルミ折りたたみステッキ、重り靴)を装着し、もうひとりがその介護役になってもらい、「記入体験」「新聞紙、雑誌を見る読む体験」「ペットボトル開け閉め体験」「小銭、カードを触る見る体験」「階段昇降の体験」をしていただきました。このような日常生活動作を疑似的に体験することにより、加齢による身体的な変化(筋力、視力、聴力などの低下)を知り、高齢者の気持ちや介護方法、高齢者とのコミュニケーションの取り方を体感できたと思います。

最後に体験参加者から感想をお聞きしましたら、「自分も将来こうなるのだなあと思った」「目が不自由だと非常に困る。介護するときにはもっと丁寧にと考えた。」「父親が94歳なので、貴重な体験ができた」「目が見えないことが一番ダメだと感じた」「体の不自由な高齢者との関わり方を考える」等の意見が出て、それぞれふりかえっていただきました。

コロナ禍で、2年間地域ミーティングができませんでしたが、私たちも久しぶりに開催することができ、直接学生と触れ合えることができ、有意義な時間を過ごすことができました。



歩行体験



ペットボトルの開閉

会員の広場

家庭菜園だよりⅡ

32期（地域A） 松栄 水野 晃

昨年から継続して育てている玉ねぎの結果をお知らせします。

マスコミでも取り上げていますが、全般に不作のようです。

我が農園も、満身に収穫できたのは2割ぐらいでした。原因は、地球の温暖化で冬の温度があまり下がらず本来冬の寒さには成長せずに耐えるのが望ましいのですが苗が成長してしまう！また、4月から5月が高温で生育に影響があったようです。

結果、トウが立ち芯が固く食せませんでした。今年は、思い切って苗を植えるのを遅くして日当たりの悪い場所に植えてみます。結果は、写真でお知らせします。

なお、ジャガイモは毎年植える品種(きたあかり)を植えて順調に育ちました。

さて、天候不順(晴天続き)で写真のスイカは中が煮えてしまい3割ほどダメでした。トマトは、乾燥に強いので順調です、作物により本当に対応が異なります。

人間と一緒に、それぞれ個性があります、それに対応するのも楽しみです。

梅雨が明けてから晴天～その後の大雨で元気になったのはサトイモ・冬瓜です。

特に、晴天時に植えたサツマイモは、カリカリに乾いた畝で心配しましたが、最近の雨でしっかり根付き元気になってきて安心しました、もともと乾燥に強いのでこれから収穫までは、安心です。

ナス、ピーマン、キュウリの夏野菜は、順調です。

これからの作業は、ニンジンと白菜・キャベツの畝つくりのため堆肥、石灰を入れての作業となります、一番大変な作業です。

この作業の結果は、野菜が答えてくれます。しかし天候不順は何ともなりません。

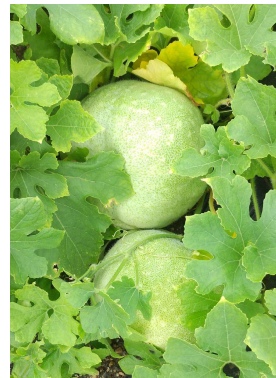
次の家庭菜園だよりは、どのような内容がお伝えできるでしょうか？



サトイモ



サツマイモ



冬瓜

生育風景



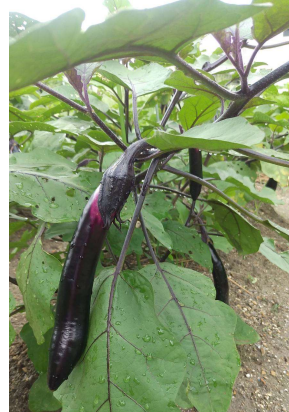
きたあかり



スイカ



トマト



ナス

収穫物

会員の広場

映画「PLAN75」を観て

31期（美術）松栄 杉江 恵理子

「少子高齢化は国難」と政治家が声を大にして叫ぶのを聞くと、腹立たしさを覚えるのは私だけでしょうか？「少子化」はもう何十年も前から危惧されていたのに、政治の無策が招いたことだし、「高齢者の増加」は人々が望み、医学の進歩のおかげでもあるのに、それをあたかも降ってわいた災難のように「国難」とは！責任のすり替えと言っても過言ではないと思います。

先日、新聞に載っていた、映画「PLAN75」に主演している倍賞千恵子さんの記事が目にとまり、これはぜひ観に行かなければと、ネットで上映館と上映時間を調べ（新聞から映画欄がなくなってしまったので、不自由なことです）ミッドランドスクエアへ行ってきました。

映画は、近未来の日本で、75歳以上の人には希望すれば安楽死を国がお手伝いする「PLAN75」という施策が実施されることになった、という設定です。そのニュースを聞いて立ち止まり、じっとこちらを凝視する、倍賞さん演じる「ミチ」の視線から始まります。「ミチ」は78歳の身寄りのない一人暮らしの女性で、施設で雑役係として働いています。始めのうちはあまり自分事として感じず、まだまだやれると思っていた「ミチ」も、仕事仲間が職場で倒れたり、そのせいで高齢者仲間3人とともに職を失ったり、親しい友人が自宅で孤独死しているのを目の当たりにしたりするうちに、次第に「PLAN75」を受け入れる方へと、気持ちが傾いていきます。

「PLAN75」を円滑に遂行するために、多くの若者や海外からの出稼ぎ労働者が動員されますが、国の相談窓口で親切に明るく対応する男性や「PLAN75」の参加申し込みをした高齢者に、毎日電話をかけ、15分間、優しく高齢者の話し相手をするオペレーターの女性など、いずれも何の疑問を持たずに、恐ろしいほど淡々と、日々、仕事としてこなしています。

しかし、偶然、申し込みに来た高齢者が20年前から消息不明になっていたおじであったり、規則を破って直接会い、一緒に楽しい時間を過ごして人間関係が深まったりすると、自分の仕事に迷いや疑いを持つようになります。

一方、高齢者の方も、身寄りのない一人暮らしだったり、持病があったり、親しい人を失ったり、経済的に追い詰められていたりすると、「ミチ」のように、自ら「PLAN75」を選ぶのです。そこへ誘導する国のやり方は、実に巧妙で狡猾です。そして、薬物による死を受け入れ、有料の単独火葬を希望しなければ合同火葬され、その遺灰は産業廃棄物として処理されることが暗示されます。担当者は死者の残したわずかな手荷物の中から金品を漁る・・・どこかで見た光景だなど思ったら、アウシュビッツと同じでした。

ずっしりと重い映画でした。高齢者を厄介者扱いするという点で、「国難」と言うのと、根っこは同じではないか。「PLAN75」の対極にあるのは、どのような社会で、それを構築していくためには、何が大切なのか、改めて考えさせられました。政治家の皆さんにもぜひ観てもらいたい映画だと思いました。（「PLAN75」に共感されたら困るけど……）



名古屋市高年大学 昭和鯨城会

第20回 趣味の作品展

今年も昭和鯨城会会員の皆様の力作が、下記要領にて展示されます。皆様お誘い合わせの上、是非御来場ください。

記

開催期間：令和4年10月18日(火)～20日(木)

時間：初日・2日目 10月18・19日(火・水)10時～16時

最終日 10月20日(木)10時～15時

会場：名古屋市昭和区役所 6階 602・604会議室

(地下鉄鶴舞線・桜通線駅下車すぐで直通エレベーター有り)

・作品搬入日：10月17日(月) 9:30～11:30

・作品搬出日：10月20日(木)15:00～16:00

展示作品：絵画、書、短歌、写真、陶芸、工芸、他



左図は昨年度
第19回趣味の作品展
(令和3年10月13日～15日)
出展者28期女性10名
可愛い帽子のブローチ

展示室内
休憩処

ご鑑賞後お茶などを飲みながら、ご感想を頂け
ましたら有り難く存じます。

昭和鯨城会会長 小川 賢雄

編集後記

新型コロナウイルスが盛衰を繰り返す中、昭和鯨城会では行事・ボランティア活動などを催し、会員各位のご協力により予定どおり107号会報を刊行できました。

昭和鯨城会 「昭和こじょう会便り」 2022年9月107号

発行責任者 小川 賢雄

広報委員長 伏屋 満 副委員長 樋口 敏幸

広報委員 杉江 恵理子、細野 博行、中村 誠司、早瀬 芳二

表紙絵 「花(シクラメン)」小中 芳子 (30期 福祉)

名古屋市高年大学鯨城学園・昭和鯨城会共同発行